



実践テーマ

消費者主権（消費者の権利と保護）について考え、その法律や取組について知る。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 数年前の食品偽装のニュースを電子黒板で提示し、消費者主権について興味をもたせる。
- 〈展開〉 ・和牛上肉、和牛並肉、輸入肉のバック（表示なし）の選別。  
・消費者契約法等についてのクイズをデジタル教科書で提示。
- 〈まとめ〉 電子黒板を使って消費者の権利と保護について、その法律や取組みをまとめる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で教科書を音読し、本時の学習内容について確認する。</li> <li>・数年前の食品偽装のニュースから、消費者をめぐる問題について考え、消費者主権について興味をもつ（動画）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニュース映像</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和牛上肉、和牛並肉、輸入肉のバックを選別し、その理由とあわせて発表することにより、商品を選ぶ基準について考える（実物）。</li> <li>・クイズを通して消費者の権利がどのように侵害されるか考える（PC教材）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実物（牛肉）</li> <li>●デジタルコンテンツ「消費者の権利と保護」（デジタル掛図）（東京書籍（株））</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケネディ大統領の「消費者の権利」や消費者を守る法律を調べ、班ごとに発表する（PC教材）。</li> <li>・学習内容をもとに各班で問題を作って発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デジタルコンテンツ「消費者の権利と保護」（同上）</li> </ul>



ニュースを視聴



牛肉を実際に選別



デジタルコンテンツを提示

生徒の反応・効果

- ・ニュースの映像を見せることで生徒の興味・関心を高めることができた。
- ・実物教材のインパクトは強く、商品選択の基準が具体的になった。
- ・デジタルコンテンツを利用し、クイズ形式で学習することにより、全員が意欲的に取り組めた。

活用のポイント

- ・ニュース映像の関係者の発言をくり返し見せることで、生徒たちの課題意識を深めることができる。
- ・分かりやすいデジタルコンテンツを用いることで、効率よく学習できる。
- ・発表の際、実物投影機を活用し、電子黒板で見せるなど発表の工夫も考えられる。